

学校法人 滋慶学園 仙台医健・スポーツ専門学校

【令和3年8月7日実施】

2020年度自己点検自己評価(令和2年4月1日～令和3年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3		学校法人滋慶学園仙台医健・スポーツ専門学校は、学校法人滋慶学園グループに所属し、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」をミッション(使命)としている。 また、「建学の理念である「3つの教育理念」…「実学教育」「人間教育」「国際教育」を実践し、「4つの信頼」…「学生と保護者の信頼」「高校の信頼」「業界の信頼」「地域の信頼」を得られることを軸にした考え方で学校運営を行っている。	「学校法人滋慶学園グループ」 昭和51年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」ことをミッションに掲げ、全国に73校の高等教育機関及び専門学校を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、「建学の理念」である「3つの教育理念」…「実学教育」「人間教育」「国際教育」と「4つ信頼」…「学生と保護者の信頼」「高校の先生の信頼」「業界の信頼」「地域の信頼」を実践することで、教育の実現を目指している。 仙台医健・スポーツ専門学校の教育目標は、建学の理念に基づき、健康・スポーツ・医療・リハビリ・幼児教育の分野において社会人として十分に適応し、即戦力として活躍できる職業人を育成し世に輩出する。 ○仙台医健・スポーツ専門学校における「実学教育」 豊かで活力ある高齢社会の実現のために、業界の即戦力として活躍できる専門知識や技術を習得し、将来的なニーズに対して創造的に対応できる専門職として、業界が求める人材を育成する。 ○仙台医健・スポーツ専門学校における「人間教育」 学ぶことは、将来の目標実現に向けて自己変革し、自らに付加価値をつけ、専門知識や技術だけでなく、使命感を持って前向きに生きる情熱と思いやりを持った心豊かな人材を育成する。 ○仙台医健・スポーツ専門学校における「国際教育」 少子高齢化が進むわが国が、豊かで活力ある社会になるために、先進国の現状に学び、健康・スポーツ・医療・リハビリ・幼児教育のあり方をグローバルな視点からとらえ、積極的にその役割を担う人材を育成する。 3つのポリシー OP(カリキュラムポリシー) 「建学の理念」(実学教育、人間教育、国際教育)を実践し、「4つの信頼」(学生・保護者からの信頼、高等学校からの信頼、産業界からの信頼、地域からの信頼)を得ることを教育コンセプトとし、産学連携教育を通じて業界に必要とされる即戦力を身に付ける。 1)学料を超えた国家試験対策の水平展開や、グループ力を活かした国家試験対策センターの対策、分析を通じて資格試験に合格するための力を身に付ける。 2)講義、実習、イベント、研修などのすべての基本となる産学連携教育システムを通じて業界が求める即戦力を身に付ける。 3)海外研修やインターンシップなどを通じて、業界の最新動向を知り、知識、技術に対する関心と感性を磨く。 DO(ディプロマポリシー) 業界に喜ばれる感動的な人材を育てる。 1)目指す職業に必要とされる資格を取得する。 2)創造力とホスピタリティを持った業界が求める即戦力を身に付ける。 3)業界の変化をキャッチアップし、社会や業界が求める職域、知識、技術に対する感度を上げ、日々研鑽に努める人材を目指す。 AP(アドミッションポリシー) 仙台医健・スポーツ専門学校では、職業人教育を通じて社会に貢献することをミッションとし、業界に喜ばれる人材を業界とともに育成している。よって入学者受け入れ方針を満たした以下のような人を国内外より広く受け入れる。 1)将来の夢や目標を持っている人 2)学校の教育内容や方針を十分理解している人 3)好きな仕事を通じて、人に喜びや感動を与えたい人 4)「好きな事を仕事にしたい」という気持ちを持っている人		
	1-2 学校の特徴は何か			学校設立のコンセプトは、～業界と共に「信頼」を得る学校～であり、単なる専門知識・技術を持った人材を養成するのではなく、業界に喜ばれる感動的な人材を育てるという基本的な考えの基に人材育成を行っている。 又、「職業人教育」=「専門職業教育」+「キャリア教育」との観点より「仲間と面白い仕事を夢中でする幸せ」の獲得を目指し、そのために必要な「身構え、気構え、心構え」を育成する。という基本的方向性に基づいて、入学前(基盤となる勤労観・職業観の形成と確立をする時期)・在学中(専門職業に就くプロセスの設計と能力の習得をする時期)・卒業後(社会・職業人への移行と更なるキャリアを開発する時期)と捉え展開している。 滋慶学園グループの「建学の理念」である[3つの教育理念]や「4つの信頼」を踏まえた自主的・自律的な3つのポリシーの策定 ①DP(ディプロマポリシー)…卒業認定・学位授与の方針 卒業までに学生が身に付けるべき資質・能力の明確化 ②CP(カリキュラムポリシー)…教育課程編成・実施の方針 体系的で組織的な教育活動の展開のための教育課程編成、教育内容・方法、学修成果の評価方法の明確化 ③AP(アドミッションポリシー)…入学者受け入れの方針 入学者に求める学力の明確化と具体的な入学者選抜方法の明示 以上の3つのポリシーとそれに基づく教育の実績等を分かりやすく積極的に情報公開することで、産業界からの理解を得て連携を強化する。			
	1-3 学校の将来構想を抱いているか						

「建学の理念」のもと、「3つの教育理念」と「4つの信頼」を掲げ、教職員の皆様が一丸となって学校運営に携わっていることは貴学の最大の強みと思っています。

国家試験対策を国家試験対策センターが一手に担い、学科の枠を越えて行われているシステムは大変素晴らしいと思います。このシステムを活かし、さらに多くの学生の皆さんの合格を期待しています。

高校側の者として、入学前に自分の目標を定めさせる「キャリア形成」の考え方は入学後の学習意欲を高める上で大変有効なことだと思います。

職業人として『仕事』をするための能力を修める基本は⇨信頼でできる『笑顔と挨拶』教員が率先垂範で示して下さい。

学校法人滋慶学園の理念・目的教育に沿いながら仙台医健・スポーツ専門学校の特色が表出されていると思います。今後も理念教育を継続して頂きたいと思います。

産学共同参画、語学の充実、海外留学等にて学生さんが学習経験を積む事により社会より求められる多くの優秀な学生さんを排出して戴きたいと思います。

<p>2 学校運営</p>	<p>2-4 運営方針は定められているか</p> <p>2-5 事業計画は定められているか</p> <p>2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか</p> <p>2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか</p> <p>2-8 意思決定システムは確立されているか</p> <p>2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか</p>	<p>3</p>	<p>環境の変化に対応できるように、事業計画については、滋慶学園グループが毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。 それを受けて、滋慶学園COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、滋慶学園COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が各校における運営の核となるものである。</p> <p>事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決算を受け、承認を得ることになっている。それを受け、各学校では毎年3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修も持っている。事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取組み、職務分掌、各種会議及び研修等について明確に示されている。</p> <p>運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。</p> <p>学校が最も大切にしていることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また係わる全ての人々が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。</p>	<p>各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、全ての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。 学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また方向性、位置付け等を確認できるシステムを構築している。 法人合併について 令和3年3月31日付で学校法人滋慶文化学園と学校法人滋慶学園は法人合併を行い、学校法人滋慶学園を継承法人とし、この法人合併により、北海道、東京、東京、福岡の36校の専門学校と社会福祉法に基づく第二種社会福祉事業、東京都認証保育所、地域包括ケアシステムに基づく福祉拠点の運営、児童福祉法第59条の二第1項の規定に基づく保育事業、指定管理者として行う施設の管理運営事業を運営している。</p>	<p>3</p>	<p>業界の急速な変化に貴校が適切かつ迅速に対応されていることが良く分かりました。</p> <p>素晴らしい経営陣、教授陣、スタッフの皆さんのもとで、計画的に単年度、5年後の学園の将来を見据えて、財政、経済面においても健全経営であり教育の拡充を図られています。</p> <p>方針、計画の策定意思決定の流れ、運営について確認しました。</p>
<p>3 教育活動</p>	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-18 資格取得の指導体制はあるか</p>	<p>3</p>	<p>職業人教育は業界と密接な関係を持つ必要があるため、建学の理念・学校設立コンセプトに基づいて、常に業界の動向を把握し変化に対応して養成目的や教科目標の見直しを毎年実施している。</p> <p>仙台医健・スポーツ専門学校は、「産学連携教育システム」を実践しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成している。</p> <p>教科目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで体系的に編成されている。また、カリキュラムは専門職業教育とキャリア教育の二本柱から成り立っている。</p> <p>講義改善、教職員・講師の資質向上等を目的として授業評価を年2回実施しており、学生の理解度や講師の状況等を正確に把握し改善している。</p> <p>成績評価・単位認定は、明確な基準を学生に提示している。</p> <p>資格取得については、業界で業務遂行上必要な資格、就職に有効な資格を中心に取得へ向けて支援を行っている。</p>	<p>仙台医健・スポーツ専門学校は、平成19年の開校以来教職員の目標として、 1.就職率100%(第一専門職) 2.国家試験合格率100% 3.退学率0% を目標に掲げ、達成のために教育システムを構築している。</p> <p>1.産学連携教育システム 即戦力としての専門的知識・技術、資格取得、ビジネスマインド等の修得のための教育システムであり、 ① 企業プロジェクト ② ダブルメジャー・カリキュラム ③ 業界研修 ④ 海外実学研修 ⑤ 特別ゼミ ⑥ キャリアセンター などである。</p> <p>2.キャリア教育 「仕事は一人ではできない。仲間と面白い仕事を夢中でする幸せは、何よりの幸福である。」という根本的な考えから、キャリア教育ロードマップを作成し、 ① 入学前…基礎となる勤労観・職業観の形成と確立をする時期 ② 在学中…専門職業に就くプロセスの設計と能力の修得をする時期 ③ 卒業後…社会・職業人への移行と更なるキャリアを開発する時期と捉えて取組んでいる。 3.理学療法科の教育課程変更 理学療法士作業療法士養成施設指定規則の一部改正する省令により、令和元年年4月1日より、教育課程の変更を行った。 基礎分野(科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解):自然科学、国際医療福祉論、情報管理学 専門分野(基礎理学療法学):臨床運動学 専門分野(理学療法管理学):理学療法教育学、理学療法管理学 専門分野(臨床実習):客観的臨床能力試験 その他(理学療法関連科目):国家試験演習Ⅰ-Ⅳ、理学療法総合演習 以上を新たに加えた。 3735時間(119単位) ⇒ 3720時間(128単位) 4.教員の専門性を向上させる研修としてFD研修を実施した。 新入職者FDマイクロレベル研修 FDマイクロレベル・フォローアップ研修 FDマイクロレベル・レベルアップ研修 FDミドルレベル研修 FDマクロレベル研修</p>	<p>3</p>	<p>目標達成の為に、全てのスタッフ対象にFD研修が実施されていることを伺い、大変素晴らしいと思いました。</p> <p>産学連携の取り組み、教育システムについて大変素晴らしいと思います。学校教育のみならずキャリア開発に力を入れている点に感心致しました。</p>

4 教育成果	4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2	<p>平成19年開校以来、産学連携教育システムである企業プロジェクト、企業課題に積極的に取り組み、企業に採用された取組や地域との信頼、貢献に繋がるプロジェクトやボランティア活動も定期的にも実施できるようになり、学生達への「実学教育」「人間教育」に繋がっている。</p> <p>教育成果は、目標達成の努力の結果であり、本校では第一専門職就職100%、退学率0%、国家試験合格100%を教育成果の最終目標としている。</p> <p>就職では、就職希望者に対して100%である。令和元年度の退学率は、7.3%であった。また、令和3度は年度目標を1.5%として取り組む。</p> <p>国家試験では、合格率100%を目指し、取り組む。</p>	<p>教育成果の1つである就職率は、対象者101名中101名内定で7月末に100%達成。</p> <p>国家試験合格率は、理学療法科35名中32名合格で91.4%、柔道整復科22名中17名合格で77.3%、視能訓練科13名中12名合格で92.3%でした。令和3年度は3学科100%を目指している。</p> <p>令和3年度国家試験対策としては、年間18回の模擬試験(オンライン模試を含む)、対策講義、グループワーク、ゼミを実施するとともに、1年次・2年次を対象とした基礎分野の口頭試問、スモールグループでのグループワーク、ノートづくり、小テストを実施します。</p> <p>また、視能訓練科、理学療法科の実習は新型コロナウイルス感染症対策を優先させた最小人数での実習参加とし、臨床実習を学内実習に振り替えて実施。非常事態宣言地域での実習の県内の振替や学内実習における現場指導者によるペーパーベシエント、地域住民を招いての模擬外来などで実習能力の涵養、臨床実習指導者講習会を受講した指導者によるゼミ形式の実習を実施。PBLを取り入れたトレーニングを行っている。</p> <p>令和2年度の退学率は、スポーツ科学科名62中退学なし、退学率は0%、柔道整復科は180名中9名が退学し、退学率は5%、視能訓練科は52名中2名が退学し、退学率は3.8%、理学療法科226名中13名が退学し、退学率は5.8%、こども保育科19名中2名が退学し、退学率10.5%、1年生の退学率は4.5%、全体では4.8%であった。</p> <p>令和3年度は、本試験の不合格者数が多い科目の対策補講を夏休み前に実施し、2セメスターに入る前に学生のモチベーションを向上させる。また、オンラインを含めた学生への個別カウンセリングの強化・保護者との連携などを行い、全体目標を1.5%として取り組んでいる。現在のところ、全学科でDO1名となっている。退学理由として精神問題、精神疾患によるものが徐々に多くなっていることから、SSCの臨床心理士と連携をとりながらサポートしていく。必要があれば合理的配慮によって一人ひとりに合わせた学習環境を整えていく。保護者の連携を図るための保護者会は、全学科で1年次および卒業年次のクラスを中心に対面型(一部オンライン)で実施する。</p>	2	<p>合格率の結果で「2」と評価された様ですが、その原因がどこにあり、又、それを改善するにはどのようにしたら良いのか検討し合格率のアップに続けて下さい。</p> <p>就職率100%は素晴らしいです。柔道整復科にて合格率が苦戦したとの事ですが今後オンライン授業での工夫が必要だと思います。</p> <p>学生の「ありがたい姿」「夢」を応援し続けることが成果と思っています。</p>
	4-20 資格取得率の向上が図られているか					
	4-21 退学率の低減が図られているか					
	4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか					
5 学生支援	5-23 就職に関する体制は整備されているか	3	<p>仙台医健・スポーツ専門学校では、学生支援として下記の事項を行っている。</p> <p>① 就職・・・専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との連携を取りながら、就職イベントの開催(就職出陣式、合同企業説明会、キャリアセミナー、就職保護者説明会)、就職の相談、斡旋、履歴書作成等の各種指導などの支援を行っている。</p> <p>② 学費・・・事務局会計課に相談窓口を設置し、フィナンシャルアドバイザーによる支援を行っている。また、教務部に奨学金窓口を設置している。</p> <p>③ 学生生活・・・担任・副担任制により学生カウンセリングを行っているが、悩み相談窓口としてSSC(チューデント・サービス・センター)を設置し、週3日は心理カウンセラーも配置している。</p> <p>④ 健康管理・・・年1回の健康診断を実施し在学中の健康管理を支援している。</p> <p>⑤ 学友会・・・学友会として、柔道部・バスケットボール部・野球部・サッカー部・バドミントン部・バレーボール部・ゴスペルアンサンブル部・スキルアップ研究会・ボランティア部が活動している。</p> <p>⑥ 施設使用・・・学生が自らすんで勉強できるように、実習室・機材を貸し出ししている。</p> <p>⑦ 図書室・・・知識を広げ自習が出来るように図書室を設置し、図書室では情報収集ができるようインターネットが利用できる。</p>	<p>学生支援の特記事項として、下記の事項をおこなっている。</p> <p>① 就職・・・就職は、入学時からの目標であるため専門部署であるキャリアセンターを設置し、業界研修の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント、就職斡旋等、就職に関するあらゆる支援を行っている。また、求人情報が携帯電話でも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」等も導入している。</p> <p>② 学費・・・事務局会計課に学費の延納・分納等に関する相談窓口を設置し、フィナンシャルアドバイザーによる支援を行っている。また、日本学生支援機構の貸与型奨学金を利用する学生が在校生の00%と高いため、教務部に奨学金窓口を設置している。さらに、令和2年度より新たに設置された「高等教育修学支援新制度(授業料等減免及び給付型奨学金の支給)」により、95名の学生が対象者として支援を受けている。</p> <p>③ 教育環境・・・即戦力の人材育成をするために、施設・設備、機材等について整備し、業界のニーズと合致したカリキュラムを構築している。</p> <p>④ 令和3年度春季健康診断の受診率は、在籍者603名中対象者591名(休学者・長欠者を除く)受診率100%。</p> <p>⑤ 保護者会の開催</p> <p>1年次及び国家試験に向けた保護者会を開催した。</p> <p>令和2年度の参加率は、対象者228名に対して120名参加の43.9%であった。</p>	3	<p>十分な学生支援がなされていると思います。</p> <p>学生支援の取り組みについて、学生の事を考え学生に集中しやすい体制が作られていることを確認しました。</p> <p>愛のある厳しさも人生の支援になります。</p>
	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか					
	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか					
	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか					
	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか					
	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか					
	5-29 保護者と適切に連携しているか					
5-30 卒業生への支援体制はあるか						

6 教育環境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	<p>仙台医健・スポーツ専門学校では、「職業人教育を通して社会に貢献する」というミッションのもと、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としている。この目的を達成するために必要な教育環境(施設、設備、機材等)の整備は重要であり整備されている。また、学内の教育環境に留まらず、学外の教育環境(業界研修、学外演習、海外実学研修)も整備している。</p>	<p>東北地区における、健康・スポーツ・医療・リハビリ・幼児教育をキーワードにした専門学校でオンリーワンを目指す本校にとって、施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、最新・最良のものを整備している。</p> <p>毎年、事業計画により予算計上を行い、計画通りに更新している。 防災訓練は昨年は新型コロナウイルス感染症のためオンラインでクラス毎で実施 概要：学生の避難誘導、避難訓練及び避難経路の確認、教職員の消火訓練、AED ※毎月AEDの管理チェックを実施している</p>	3	<p>業界の動向を踏まえた教育環境の整備は大変なことだと思っています。そのような意味でも学科の教育環境の整備に今後力を入れたいと思います。</p> <p>これまでの教育上の施設・設備・機材を確認、現在新型コロナウイルスの感染防止対策の為、教育環境に様々な工夫と配慮をしている事を確認しました。</p>
	6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか					
	6-33 防災に対する体制は整備されているか					
7 学生の募集と受け入れ	7-34 学生募集活動は、適正に行われているか	3	<p>本校は宮城県専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO入試等)を遵守している。また、過大な広告を一切廃し必要な場合は根拠数字記載するなど、適切な学生募集ができるように配慮している。さらに広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。</p> <p>広報・告知に関しては各種媒体、ホームページ、入学案内、説明会等を通して、学校や教育内容を知ってもらえるように努めている。これらすべての広報活動において収集した個人情報、校内に個人情報保護委員会を設置し、管理の徹底を行っている。</p> <p>入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しており、入学選考後は「入学選考会議」により、可否を決定する。</p> <p>学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っている。保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中での追加徴収を行わない。</p>	<p>学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。</p> <p>広報活動では「学校の特色を理解してもらう」ことを強化している。本校は専門職への就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前から目指す職業のイメージが明確になっていることが大切と考え、体験入学や説明会を通して十分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p>教育成果として、就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化している、学生募集上の効果はかなり高いと考えられるが、それゆえに過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、常にチェックしている。</p>	3	<p>コロナ禍の中でも順調に入学者が増加しているのは、貴校の教育内容の充実にあると思っています。</p> <p>ルールに基づいた募集の開始と内容、広告、広報活動を確認しました。入学専攻は基準に基づき行われていることを確認しました。学納金や預かり金など必要諸経費を提案の上で徴収していることを確認しました。</p>
	7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか					
	7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか					
	7-37 学納金は妥当なものとなっているか					

<p style="text-align: center;">8 財務</p>	<p>8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>8-40 財務について会計監査が適正に行われているか</p> <p>8-41 財務情報公開の体制整備はできているか</p>	<p style="text-align: center;">3</p>	<p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。</p> <p>毎年、次年度の事業計画書を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前にくんでおくのが目的である。また、学校、学園本部、理事会、評議員会と複数の目でチェックするため、より現実し即した予算編成となっており、健全な学校運営が出来ていると考える。</p>	<p>予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。</p> <p>①正確かつ実現可能な予算の作成 短期的と長期的の両方を事業計画として作成し、短期的視野と長期的視野の2つの観点から予算編成をしている。短期的な予算編成は当年度の実績を基に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものと乖離した場合はそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすことにしている。</p> <p>②体制作り 事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し、予算と乖離しているようであれば、修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。</p> <p>③財務情報公開 平成25年度よりHPIにて財務情報公開に取り組んでいる。</p>	<p style="text-align: center;">3</p>	<p>組織的に予算編成や管理がなされていると思います。</p> <p>財政基盤安定への取り組み予算が正確かつ実現可能となるための取り組み、会計監査のチェック体制財務情報公開に関するHP上での取り組み、以上について確認しました。</p>
<p style="text-align: center;">9 法令等の遵守</p>	<p>9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</p> <p>9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</p> <p>9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</p> <p>9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか</p>	<p style="text-align: center;">2</p>	<p>法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。</p> <p>法人理事会のもとにコンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。現状では学校運営が適切かどうかは次の各調査等においてチェックできるようにしている。</p> <p>①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基本調査 ④専修学校各種学校調査 等 である。</p> <p>また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。</p> <p>(A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ)</p> <p>(B) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)</p> <p>滋慶学園グループ、滋慶学園COMグループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健全な学校運営が出来るようにしている。</p> <p>法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。</p>	<p>すべての法令を遵守するとともに社会規範を尊重し、高い倫理感に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。</p> <p>方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置。委員長は統括責任者として学校の役員が就任し、委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。主な任務は行動規範・コンプライアンス規定の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。滋慶学園グループの自己点検・自己評価実施の方針のもと、自己点検・自己評価を実施した結果及び学校関係者評価委員による評価も併せて公開している。</p>	<p style="text-align: center;">2</p>	<p>コンプライアンス委員会が充分機能しているものと思います。</p> <p>法令遵守・個人情報保護に関する対策、自己点検評価の実施、自己点検・評価の結果公開に関してその取り組みを確認しました。</p>
<p style="text-align: center;">10 社会貢献</p>	<p>10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか</p> <p>10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</p>	<p style="text-align: center;">3</p>	<p>滋慶学園グループには、「4つの信頼」①業界の信頼 ②高等学校の先生の信頼 ③学生・保護者の信頼 ④地域の信頼 というコンセプトがある。この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。</p> <p>又、滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」や「節電」に関するクールビズやウォームビズは、学生、教職員、講師が積極的に取り組んでいる。</p>	<p>滋慶学園のミッションである「職業人教育を通して社会に貢献する」ことを目標に、人材育成を具現化することで、本校を巣立つ学生が社会に貢献することを願う。</p> <p>在学中から、職業人として育成する「職業人教育」=「専門職業教育」+「キャリア教育」を教職員、講師一丸となって推進していくことにより、多くの卒業生が社会貢献できると確信する。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、通常行っていた公益社団法人日本柔道整復師会東北ブロック、公益社団法人宮城県柔道整復師会、一般社団法人宮城県理学療法士の講習会会場としての校舎貸出は行っていない。</p> <p>特色ある活動として 理学療法科・・・令和2年度は仙台市委託事業「健康リハビリ」に年間11回述べ94名の学生が参加し、受講者の身体能力検査と測定を行いました。令和3年度は、榴岡地域包括支援センターと連携して運動教室を年間3回実施し、参加者人数を調整しながら対面型で学生も参加する。 スポーツ科学科・・・令和2年度は東北マークスバトミントンチームへ毎週継続的にメディカルチェックをした後、トレーニング指導を学生が実施しました。 柔道整復科・・・令和2年度は外部での臨床実習の代替として学内実習を実施した。現場の先生方に保険請求の方法やカルテの書き方、固定法、検査法などを習った。 視能訓練科・・・令和2年度は日本盲導犬協会より講師をお招きして盲導犬を取り巻く環境について講義をして頂きました。また、視覚障がい者リハビリテーションやロービジョン医学の発展学習として実施した。 こども保育科・・・令和2年度は仙台市の太子堂すいせんこども園にて、3年生が感染対策を講じながらオンデマンドとリアルハイブリッド影絵を披露した。</p>	<p style="text-align: center;">3</p>	<p>各科より活動内容の説明を受けましたが、コロナ禍の中で良く活動されていることが分かりました。今後も更に期待しています。</p> <p>コロナ禍の中で大変だったかと思えます。</p> <p>「4つの信頼」の獲得を目指し環境への配慮について確認しました。</p> <p>毎年、毎回、宮城県柔道整復師会の取り組みに対して積極的なご支援とご参加を頂いております。</p>